



PTA会員Mさんの素朴な疑問と選管Sさんの委員選出のしおり解説



そもそもPTAとは何のためにあるのでしょうか？

Mさん

学校・家庭と地域社会のつながりを大切にすることにより、**子ども**を取り巻く環境を心ある温かいものにし、**健全に育てる**ためのしくみです。



Sさん



30年度で色んなことが変わってきましたね。今回、要綱がしおりに変更になるのはなぜですか？

Mさん

30年度は総務さんが先頭に立って、委員の方々と協議を行い、牧の台小学校のPTA活動について検討し、活動内容や委員選出の方法などを変更してきました。

その中で、「要綱」という呼び名を「しおり」と変更し、内容も新しいものに変えています。「要綱」には、
①少子化で対応しきれない内容で、1人のお子さまに対し2度目の委員選出の可能性が現実化している
②新6年生しか辞退できない
③内容が複雑すぎる などの問題がありました。それらを、【お子さまお1人に付き、1回委員を経験しましょう】という原則を元に解消し、委員選出の流れを、全ての方に分かりやすいものとなることを目指して「しおり」を作成しています。



Sさん



これまでの「委員選出要綱」と併用するのですか？

Mさん

いいえ。これからは「委員選出しおり」をもとに、委員選出を行います。



Sさん



なぜ**新1年生の委員は廃止**になったのですか？

Mさん

①二巡目の委員就任を回避するために委員数を減らすためです。
②また、新一年生の保護者の方に、入学後一年は、学校について知っていただく期間にするためです。新学年の開始前に委員が全て決まるため、各新旧委員会内の引継ぎ業務を3月中に行っていただけるようになります。※新旧合同委員会の3月開催も可能
多忙な4月の選考がなくなるため、落ち着いた状態で新年度を迎えることができるようになります。



Sさん



新1年生の委員の廃止によって、四役・各専門委員会の委員数がこれまでより一名減少することになりますが、**各委員さんの負担が増えたり、活動に影響が出る**のではないですか？

Mさん

それにつきましては、これまでに各委員会委員さんにも調査・相談を重ねました。
1名減での活動に不安がある委員会については、しっかりと人員のフォローの体制を整えていきます。各委員会の業務内容によって対応していくこととなりますが、例としては、
●六年生で、委員経験無しとなった方々のPTA活動参加 ※「委員選出要綱」細則にも掲載の内容
●総務部からのヘルプ〈選管〉
●全PTA会員よりお手伝いボランティアを募る
●各委員会間のヘルプ〈例：地区からベルマーク〉などの方法を取り入れてまいります。
各委員会間のヘルプの具体的な内容は令和元年の検討事項になります。
また、実際の活動において支障が出る場合は、今回の変更を再検討し、柔軟に対応していけるよう、総務と選管が今後も連携して行きます。



Sさん



四役経験者の委員経験の扱いの変更について。

Mさん

一度四役をすれば、兄弟が何人いようが永久不滅ポイントだということで覚悟を決めて四役をしたのに、どうしてくれるんですか。

これまでの要綱をもとに、事情を考慮されて自ら四役を経験された方、また思いがけず四役が当たってしまい、仕方がなく腹をくくってお務めしたけれど、もう二度と役員やらんでええわ…と
思っておられた方には、本当に申し訳ございません。
少子化が進む中、委員の必要数を確保するためには、四役経験者の方であろうと、必ず永久に委員を免除します、とはお約束できない状態にきています。「お子様一人につき一回は委員をしましょう」という原点に立ち返らねばならない現状にきています。



Sさん

これからは、四役経験者は当該年度の状況により学年委員選ならびに地区委員選に、参加していただく可能性がございます。その際、四役経験者は最後に選考の対象となります。（※当該学年の2巡目の直前の選考対象となる）
学年委員選ならびに地区委員選の候補になる場合がありますが、四役選への参加は免除されます。また、調査票の集計の結果、選考会を催すための必要数が足りている場合には、免除とさせていただきます。できるだけ四役経験を尊重いたしますので、どうか、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。



調査票の活動希望の表記について

「希望順位:1~6位」から、
「来年度の活動やる気度:強→弱=A・B・C・D」
という表し方に変更されたのはどうしてですか?

Mさん

各ご家庭から提出していただく調査票によって選管が知りたい情報は、「○○さんは来年度の活動希望があるかないか。あるなら、その「やる気度」は強か弱か」ということです。つまり「○○さんは○年生の時に希望○位」という情報よりも「来年度に活動希望されている方が何名いらっしゃるのか」「やる気度 強」の方だけで必要数が確保できるのか。「やる気度 弱」の方にも選考に入っていただく必要があるのかどうか」という情報がほしいのです。そのため、集計作業をよりシンプルにするために、記入していただく項目を来年度についてのみに絞り、活動可能強度が強い順に A・B・C・D と表す方法に変更させていただきました。また、調査票にご自分がどんな順位を書いたかをお忘れになる方もおられましたので、そのようなわかりづらさも少なくなるかと思われます。



Sさん



選考会について①

活動やる気度 B 以下を書いた人も招集される場合があるとのこと、また、招集された場合には、Aと書いた人との区別はせずに選考されるのですが、これまでの希望順位1、2、3…のように、Aの人から選出するべきではないですか?

Mさん

これまでの方法では、希望順位1の方の人数が少ない場合には2以下の方にも招集をかけ、選考については1の方から順に選出させていたおりました。そのため、招集をかけた2以下の方々には、選考会に足を運んでいただいたにもかかわらず、実際には補欠番号を割り振るだけで帰っていただくことがほとんどでした。また「2って書いたのに呼ばれたわ～」などと、1以外を書いた方で招集をかけられた方が困惑されるということもありました。しかしそれらには、「1」と書いた人達だけでは必要数に満たない可能性がある」という、選管にとってははげつづちの、止むに止まれぬ事情がありました。それに加えて、選考の全ての作業に携わる選管にとって、1の方、2の方…とグループ分けをして別々で選考しなければならないのは、物理的・精神的にかなりの重作業でした。それならば、招集をかけられた全ての方が同等に選考に参加していただくということが、選考会に参加していただく皆様にとっても、進行を執り行う選管にとっても、シンプルでわかりやすいということで、このようにさせていただきました。



Sさん



選考会について②

やる気度 最強である「A」を書いた方と、B以下を書いた方とを一括りにして選考するのは、せっかくやる気度最強であると表明してくれたその心意気は、どうなるのですか?

Mさん

選考会における委員選出方法は「①立候補」「②協議」「③抽選」の順に進めることになっています。これは、四役選・学年委員選・地区委員選、それぞれの選考について、その方法を進めます。やる気度の強さは「①立候補」の段階で存分に表明していただくことが可能です。ご理解をいただきたいと思ひます。



Sさん



地区委員選について

上の学年の方から選出対象者を抽出し、選考会に招集されることになりました。どうしてですか?

Mさん

少子化で2回目の委員への就任が起こらないように、委員候補者をできるだけ残せるようにするためです。これまでの方法では、下の学年の方が選ばれ、その学年の委員候補が減ってしまい、新6年の方が選から漏れて委員経験のないまま卒業されるというケースもありました。これまでに特定の低学年で10名前程度の地区委員が集中するという選考結果が複数起こっています。児童数の少ない学年で同様の結果になると、その学年が高学年に上がる頃には学年委員の候補者となりうる方がいなくなってしまいます。そうなると委員就任二巡目の可能性が高くなってしまいます。そのようなことを避けるために、上の学年から候補者を出していくという選出方法を取ることにいたしました。また、それぞれの地域の事情をよく知っている高学年の方が地区委員を担当されることで、地域の情報などをより良く収集・発信していただきやすいと期待しています。



Sさん



辞退申請について

辞退申請って新6年生以外も必要なのでしょうか?

Mさん

これまで、正当な理由があるにもかかわらず、新6年生以外ということで辞退申請ができない方が毎年数名おられました。今後、候補者不足により、新6年生以外の学年で辞退が必要な方が、選考の対象になってしまうような事態を避けるため、正当な理由があり、辞退を希望される場合には、全ての学年の方が辞退申請書を提出できることになりました。(以前は、辞退申請ができる対象者は、新6年生だけでした。)辞退申請については、校長・教頭・PTA会長・選管部長による協議で、厳正に対応させていただきます。しかしながら、当該年度の状況により、辞退受理の結果に差が出る場合もあることをどうかご了承ください。



Sさん

皆様のご協力あつてのPTA活動です。正直なところ現状では、強制的で、やらなきゃあないからやる…というような委員活動です。

とはいえ、いざ始まれば気持ち良く活動してくださる皆様がたくさんおられます。また、そのようなたくさんの気持ち良い方々のおかげで、ここまで牧小のPTA組織を維持することができたのだと思ひます。

全てのPTA会員の皆様がなるべく同じように協力していただけるように、選管も対応してまいります。

またそのために、選管の業務を簡素化していきたいと思ひ、ご自分も選管として委員活動をする可能性もあることを想定していただき、ご理解をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



委員選出管理委員会